

情報を広げ、深める方法

- ・ 図書館の役割は、まちに暮らす全ての人へ、豊かな生涯学習の機会を本や情報を通して提供することではないか
- ・ 地域の人材や知見、体験が図書館へ集まり、そこから人と人が繋がりながら情報を発信していければよい
- ・ 子育て家庭、小学生、中学生、シニア世代、ハンディキャップのある方、日本語を母国語としない方、全ての方にとって居心地がよく、魅力的であるとよい
- ・ デジタルネイティブである今の子どもたちへの情報は、本だけでなく動画等も含めた紹介が出来ることよい
- ・ 情報を深めていけるような魅力的な本や情報がコーディネートされ、図書館で見られることよい
- ・ 地域にいる様々な分野のスペシャリストと出会える講座や企画があれば、より興味関心が深まる
- ・ 全ての子どもたちが平等に情報と出会い、利用するためには、学校図書館の充実と連携が必要
- ・ 実施した企画や講座の様子が見られるサービスがあるとよい
- ・ 人が情報を深める時に、資料を読むだけでなく、先人の後ろ姿を見るような、極めていいる人との出会いがあるとよい

- ・ 図書館としてのコンセプトをまとめた上で、名前を聞けば目的が分かるような斬新な施設名にするとよい
- ・ 子ども向けに特化した図書館なら子ども館、メディア的なものが発達している図書館ならメディア館というように、特色を打ち出した名前にするのもよい
- ・ 「図書館」という名前は変えずに、本を置いているだけの施設ではないと発信することが必要ではないか
- ・ これからの図書館は、地域や人々の暮らしの多様化に合わせたニーズに対応していく必要がある。ベースの機能の上にその地域のニーズに合わせ少しずつ加えていけばよい
- ・ 集える場所があることが図書館の強みであり、それを活かしたコミュニティの場にするとも考えられる
- ・ 国や都道府県等の上からの情報、市民活動を行っている方や学校、地域内等の下からの情報、他自治体やほかの地域の横からの情報をどう絡めて発信できるかが重要
- ・ 地域の人材や知見を活用するのであれば、それをコーディネートする人材が必要
- ・ 地域のプロフェッショナルを活用する場合、誰が動かすのか、講座内容は適切なのか、その判断は誰がするのか、などのコーディネートも必要

第8回検討委員会での意見

情報を広げ、深める方法

- ・各年代層に向けた施設が色々あるが、世代によって施設が変わるのではなく、図書館があらゆる年齢層の人たちに平等に、情報や本等を介し集える場所になればよい
- ・学校図書館、高齢者施設、障がい者施設等との連携というアウトリーチの視点も、情報を広げ、深めるというアプローチ方法の一つである
- ・実際の生活者たちのニーズをどのようにすくい上げていくかという視点が重要
- ・図書館のリピーターは、一人がよいという方も多い。好きな時に参加して、好きな情報だけが得られるような、出入り自由に出来る視点も大事
- ・子どものプログラミング教育のように、問題を発見し解決する能力等、そこに至るまでのプロセスを考える力を育むことを目的としたイベントや企画も図書館で考えていけたらよい